

研究主題

学校教育目標「夢を持ち 大地にかがやく子」の具現

～「主体的・対話的で深い学び」と「キャリア教育」を通して～

＜「夢を持ち 大地にかがやく子」とは＞

夢と希望を持って、仲間と助け合ったり励まし合ったりしながら、粘り強く追究することを通して、生きていくために必要な資質・能力を育むとともに、自分らしさを磨いていく子供

未来へつなぐ学び

本校では、キャリア教育を「未来へつなぐ学び」と称し、教科学習における「未来へつなぐ学び」を中心に研究に取り組んでいます。令和2年度は、「キャリアAの学習」の手立てを、そして令和3年度は、それに加え「キャリアBの学習」の手立てについて追究しています。

本資料では、本校のキャリア教育の実践に絞って御紹介します。



キャリア教育

- For the future -



キャリア教育は、子供たちが自分の未来社会を切り拓く力を身に付けるための教育だよ。

浜松市立三方原小学校



「キャリア教育で育てたい力」

「キャリア教育で育てたい力」とは、基礎的・汎用的能力を子供がイメージしやすい言葉で置き換えた力や、基礎的・汎用的能力を発揮し学習や活動をしている子供の具体的な姿のことです。

設定する際のポイントは、子供の実態をできるだけ詳細に見取り、課題を明確にすることです。令和3年度の本校の「キャリア教育で育てたい力」は、次の四つです。



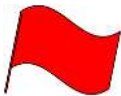
かわる力

相手の意見を聴いて、自分の考えを伝えるとともに、他者と協力、協働して学級や学校、家庭、地域のためにできることを考えて行動することを通して、人間関係形成・社会形成能力を育む。



みつける力

自分のよさや伸ばしたいところを基に、学習や活動に取り組むことを通して、自己理解・自己管理能力を育む。



解決する力

課題を発見し、計画を立てて解決することを通して、課題対応能力を育む。



イメージする力

身近で働く人々及び職業への興味・関心を持たせ、実践的・体験的な活動を通して、キャリアプランニング能力を育む。



「キャリア教育で育てたい力」につなぐ手立て

「キャリア教育で育てたい力」を、育むためには、教師の指導（手立て）が必要です。もちろん、教師の指導がなくても、無意識の中で「キャリア教育で育てたい力」の何かが、子供に育まれるかもしれませんが、それでは教育ではありません。目標と指導と評価があつて教育と言えます。キャリア教育は、ICTのようなツールでもなく、CSのような制度でもありません。教育なのです。そこが、他の二つと大きく異なる点です。ここでは、「キャリア教育で育てたい力」につなぐ手立ての中で、主な四つの手立てを紹介します。

キャリア・オリエンテーションI



キャリア・プレート



振り返り



未来へつなぐ一言





教科学習における「未来へつなぐ学び」の実践

「未来へつなぐ学び」を展開するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要です。本校では、研究主題のサブテーマにあるように、「主体的・対話的で深い学び」とは何か、そして、そこで展開される「未来へつなぐ学び」の在り方について追究しています。今年度の実践を紹介します。

2年生 生活科「うごく うごく わたしのおもちゃ」

<本時の目標> 10/15時間

- ・様々な遊び方を試しながら、みんなでより楽しく遊べるように、どんな工夫ができるかを考えたり伝えたりすることができる。
(教科：思考・判断・表現)
- ・より楽しい遊び方になるように、めあてに向かって活動することができる
(「未来へつなぐ学び」：解決する力)



- ア：「キャリア教育で育てたい力」につなぐ「見通し」
- イ：「キャリア教育で育てたい力」につなぐ「振り返り」
- ウ：「未来へつなぐ一言」

主体的・対話的で深い学び

<めあてをつかむ>

みんなが楽しくあそぶために、あそび方やルールで工夫できるところを見つけよう。

ア

「キャリア・プレート」を見て、「キャリア教育で育てたい力」につなぐ「見通し」をもつ。

<課題解決に取り組む>

- ・ペアのグループ同士で遊び合い、遊んだ感想を伝え合う。
- ・ペアのグループからアドバイスを受けて、同じおもちゃのグループで工夫できる点はないか話し合う。

「未来へつなぐ学び」

<まとめる>

- ・車選びのくじを作る。
- ・投げる回数を増やす。
- ・コースを長くする。

イ

「キャリア教育で育てたい力」につなぐ「振り返り」をする。

「未来へつなぐ一言」を聞く。

ウ

ア

0 5 10 15 20 25 30 35 40 45 (分)



「キャリア教育で育てたい力」につなぐ手立ての時間はほんの少しだけということが分かったかな。

今日は、友達からよいアドバイスをもらいましたね。先生も小学生の頃、人形の家を作ったときに、友達からアドバイスをもらって、遊び方を工夫したら、遊びが広がってとても楽しかった経験があります。自分一人で思いつかないことも、みんなで話し合っ工夫していくと想像以上に楽しいものができます。友達と一緒に何を作ったり、考えたりすることは、楽しいことです。今日勉強したことは大人になっても必要な力ですよ。



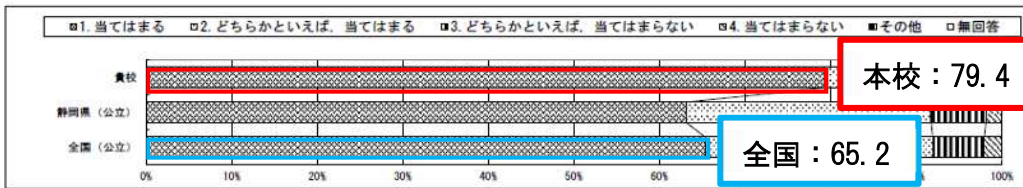
成果

「キャリア教育で育てたい力」を育むことを目指し、「未来へつなぐ学び」を教科学習や教科外活動を中心に実践してきました。
ここでは、これまでの実践の成果について紹介します。

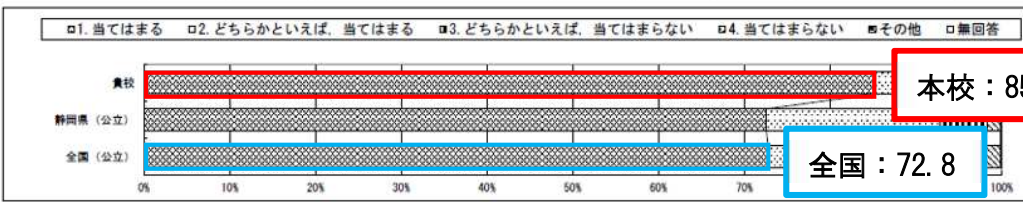
令和3年度全国学力・学習状況調査 回答結果集計 [児童質問紙] 浜松市立三方原小学校一児童

以下の集計値／グラフは、5月27日から6月30日までに実施した調査の結果を集計した値である。
※ただし、「全国（公立）」、「都道府県（公立）」の値は、5月27日に実施した調査の結果を集計した値である。

質問番号	質問事項										
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	79.4	15.7	3.9	1.0						0.0	0.0
静岡県（公立）	63.1	28.6	6.4	1.8						0.0	0.0
全国（公立）	65.2	26.6	6.0	2.0						0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(55)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	85.3	10.8	2.0	2.0						0.0	0.0
静岡県（公立）	72.6	20.3	5.4	1.6						0.0	0.1
全国（公立）	72.8	19.8	5.3	2.0						0.0	0.1



「国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した本校の子供の割合が全国の割合を大きく上回りました。

これは、「未来へつなぐ学び」によって、基礎的・汎用的能力を育むとともに、「学びが自分の将来や社会につながっていること」を、子供に自覚させることに役立っている表れだと考えています。

「学びが自分の将来や社会につながっていること」を自覚している子供の割合が高いよ。



令和3年度 児童を対象としたキャリア教育に関する学校評価結果（7月実施）

<質問>私は、学校で勉強したことが大人になった時、役立つと思っている。

区分	そう思う	だいたいそう思う	肯定的な回答の割合の合計
低学年	81.5%	17.9%	95.5%
中学年	77.6%	14.8%	92.4%
高学年	76.3%	19.1%	95.4%

本校が、キャリア教育の研究に取り組み始めて、6年が経とうとしています。研究を始めた当初は、第3次浜松市教育総合計画でキャリア教育に触れられていたものの、何から始めていいのか全く分からない状態でした。そこから、先進校の視察で学んだことを基に研究を進めることで、少しずつ職員の理解が深まってきました。また、平成29年に改訂された現行の学習指導要領に、「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と示されたことにより、研究が加速していきました。

これまでの研究を通して見えてきたことは、子供たちがこれからの未来社会を切り拓くために、キャリア教育を通して育む基礎的・汎用的能力は、欠かすことができない資質・能力であるということです。現在も本校の研究には、キャリア・パスポートに綴じ込むワークシートの内容や「キャリアBの学習や活動」の意図的・計画的な実践の手立て等に課題がありますが、教科学習におけるキャリア教育については、一定の成果が見られたものと考えております。

本校の実践が、貴校のキャリア教育の推進の一助になれば幸いです。

校長 岩瀬 隆伸

令和3年12月7日（火） キャリア教育実践モデル校 授業公開の様子



<体育館の子供と参観者の様子>



<参観者が授業をリモートで参観している様子>



<授業の中で、互いの店を体験している様子①>



<授業の中で、互いの店を体験している様子②>



< 参観者がリモートと子供たちの様子を生で見ている様子 >



< 子供発表の様子① >



<子供の発表の様子②>



<参観者から見た子供たちの様子>



<子供の発表の様子③>



<ゲストティーチャーのお話の様子>



<研究協議の様子①>



<研究協議の様子②>



<学校の花壇で育てているジャガイモ①>



<学校の花壇で育てているジャガイモ②>



<お借りしている地域の畑で育てているジャガイモの収穫の様子①>



<お借りしている地域の畑で育てているジャガイモの収穫の様子②>

第3学年1組 社会科学習指導案

指導者 足代 春希

1 日時 令和3年12月7日(火) 5校時(午後2時00分～2時30分)

2 場所 体育館

3 単元名 店ではたらく人～みんなが買いたくなるお店の工夫～
(みんなスマイル!三方原ジャガイモせんもん店)

4 単元の目標

(1) 教科

- 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて調べたり図や表にまとめたりすることを通して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解することができる。(知識及び技能)
- 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりに着目して、販売の工夫を考え、販売に携わっている人々の仕事の様子を分類したり、図や表にまとめたりすることができる。また、販売の仕事に見られる工夫の必要性や大変さに気づき、自分の考えを文章で記述したり、相手に説明したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 消費者の願いや販売の仕方について予想や学習計画を立てたり、振り返ったりしながら、見通しをもって身近な問題を解決しようとしている。そして、今後の自分の生活に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

(2) キャリア教育

- 「販売の仕事や工夫」について課題意識をもち、自分から進んで集めた情報から必要な情報を取捨選択してまとめ、友達と協働して課題を解決することを通して、課題対応能力を高めることができる。(課題対応能力)
- 販売の仕事や販売に携わる人々の思いや願いを理解し、自分たちのジャガイモ販売の工夫を考えることを通して、いろいろな人々が工夫してわたしたちの生活とつながっていることに気づき、自分の将来(仕事や生活)とのつながりを考えることができる。(キャリアプランニング能力)

5 単元について

(1) 児童の実態(男子12人、女子18人、計30人)

1学期の社会科「農家の仕事」の学習では、チンゲンサイについて、本やインターネットを通じた調べ学習に意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、1学期は、調べ学習の行い方を教師が指示しながら進めることが多く、他者との協働による課題解決という点では、今後積み上げが必要である。また、「農家の仕事」の学習と並行して展開した総合的な学習の時間(以下「原っ子タイム」)の単元「三方原のジャガイモのひみつ発見」では、三方原の特産物であるジャガイモについて、生産者である磯貝さんの話を聴いたり実際に畑に行き収穫体験や見学をしたりして生産する側の工夫や努力について、体験的に、ジャガイモ農家の仕事の理解を深めることができた。さらに、2学期の「原っ子タイム」で、校内の栽培園や地域の農家の方にお借りした畑で、ジャガイモ作りに取り組み始めた。実際に畑に種イモを植えた児童たちは、おいしいジャガイモが育つことを楽しみにしており、そのジャガイモは自分たちのお店を作って売りたいという思いも高まっている。

そこで、本単元「店ではたらく人～みんなが買いたくなるお店の工夫～」では、スーパーマーケットの見学や消費者の願いに関するアンケート調査(家族がよく買い物をする店や、買い物する際の工夫など)を通して、販売者が消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高める工夫について学習する。その学びを生かしてジャガイモ専門店の工夫について考えることで、児童がよりよいお店が作れるように支援したい。

また、本学級の児童は、「みんななかよくスマイルで😊 一人一人が全力で!学校一番3年1組!!」を合言葉に、日々勉強や運動に取り組んでいる。そこで、この合言葉を活用し、農家の人も、商品売る人も、商品買う人もみんなスマイルになれるようなお店作りをしたいとい

う思いを引き出し、お店の工夫について学習することができるよう支援していきたい。

(2) 単元構想の工夫

① 主体的な学びについて

本単元の導入時に、これまでの学習で学んだ「もっとたくさんの人に農作物を買ってもらいたい。」という農家の方の思いを生かして、販売の仕事の様子やその目的など、店で働く人の工夫や努力に目を向けさせていきたい。そして、単元を通して、児童が主体的に取り組むことができるよう「たくさんの人に商品を買ってもらうために、どのような販売の工夫をしているのだろう。」という「単元を貫く問い」が生まれるよう支援する。また、その問いに対する予想を立て、それを基に追究するための学習計画を立て、毎時間めあてを確認したり振り返ったりすることで、児童一人一人が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

② 対話的な学びについて

「単元を貫く問い」の解決に向けて、スーパーマーケットなど店内の写真や広告「のびゆく浜松」などの資料を活用したり、スーパーマーケットに行ってみ学したりすることで販売の仕事がどのように行われているか捉えられるようにしていく。また、家の人への買い物アンケートを行い、その結果と販売の仕事の工夫を結び付ける学習を行うことで、児童が消費者の多様な願いを踏まえた上で、店は販売の工夫をしているということにも気付くようにしていきたい。そして、課題解決に向けた友達との話し合いに加え、販売者であるスーパーマーケットの店長さんや消費者である家の人、ゲスト・ティーチャーとしてお招きするファーマーズマーケットの副店長さんやJAとぴあ三方原店支店の店長さんへのインタビュー、また販売の工夫や消費者の願いに関する資料など、他者や資料と対話しながら課題を解決していくことができるようにする。

③ 深い学びについて

前単元「農家の仕事」や原っ子タイム「三方原のジャガイモのひみつ発見」で学んだ生産者の仕事や思い、本単元における消費者の願いを踏まえた販売の仕事の理解、そして本学級の合言葉「みんななかよくスマイルで 😊 一人一人が全力で！学校一番3年1組！！」から、「農家の人でも売る人も買う人もみんながスマイルになるジャガイモ専門店を開きたい。」という思いを引き出し、「どんな工夫をすれば、みんながスマイルになるお店を作ることができるのかな。」といった「深い学びに導く問い」が生まれるよう支援する。ここで言う「スマイル」とは、販売にかかわる「農家の人」「売る人」、消費者である「買う人」がスマイルになることであることと定義する。

これまで習得してきた知識や技能を活用して、地元のJAとぴあ三方原支店の敷地内でのジャガイモ専門店の開店に向けて試行錯誤していくことで、児童の課題を解決していく力を養っていきたい。なお、「みんなスマイル！三方原ジャガイモ専門店づくりは、原っ子タイムを活用し、社会科で生まれた「深い学びに導く問い」は、原っ子タイムの単元「三方原のジャガイモのひみつ発見」の問いとして共有することとする。

(3) キャリア教育の視点から

① キャリア・オリエンテーション

本単元は、前単元「農家の仕事」や原っ子タイムの単元「三方原のジャガイモのひみつ発見」とともに、3年生の「キャリア教育年間指導計画」に位置付けられている。そこで、単元の導入時には、「未来へつなぐ学び」（キャリア教育）で育みたい4つ力のうち「解決する力」（課題対応能力）と「イメージする力」（キャリアプランニング能力）につながることを児童が自覚できるように支援する。

具体的には、教科で目指す資質・能力を身に付けながら、その過程で「めあてに見通しをもって取り組む」「友達と一緒に解決する」など、「解決する力（自分なりのめあてをもって課題に取り組むこと）」も併せて高めていくことを児童と共有するということである。

また、社会科の学習を通して、様々な職業とその仕事の内容、どんな思いをもって仕事をしているかについて知ったり、理解したりすることを通して、「身の回りの仕事に関心をもつ」「身近な仕事が自分の生活とどう関わっているか考える」など、「イメージする力」についても同様に高めていくことを児童と共有する。

② 「キャリア・プレート」と「未来へつなぐ一言」、「『キャリア教育で育てたい力』につなぐ振り返り」



本単元の授業では「キャリア・プレート」を黒板に提示し、この時間は社会科の学習とともに、「未来へつなぐ学び」も展開されていることを児童が自覚できるようにする。また、教科のまとめをしっかりと押さえた上で、この学びは将来（働くことや生活）につながること（「未来へつなぐ一言」）を授業のまとめに関連させながら児童に伝える。そして、「解決する力」（課題対応能力）と、「イメージする力」（キャリアプランニング能力）について振り返る時間を設定し、児童に「この授業では『未来へつなぐ学び』が展開されている」ことの自覚を促し、「キャリア教育で育てたい力」の育成につなげたい。







③ 掲示




キャリア教育が展開されていることを、児童が自覚するための支援として、教室や廊下等にキャリア教育に関する掲示をする。児童が掲示を見ることで、「今、自分たちは「未来へつなぐ学びで育てたい4つの力」のどの力につながる学びをしているのか」を自覚することができるようにする。




本単元においては、教室掲示に「単元を貫く問い」や学習計画、活動の様子を写した写真などに加え、「キャリア教育で育てたい力」（本単元では「解決する力」、「イメージする力」）にかかわる掲示物（「キャリア・プレート」や児童の振り返りなど）を掲示する。また、廊下に「キャリア教育年間指導計画」を掲示し、児童（教師や保護者、地域の人も含め）が見通しをもってキャリア教育を展開していくことができるようにする。

6 学習計画（20時間）

主な学習活動	時間	キャリア	指導上の留意点/◎ 評価
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの商品（農作物）は、どこから来ているのか、またどこで売られているかについて話し合う。 	1		<ul style="list-style-type: none"> 中村さんのチンゲンサイが大阪でよく売れているという話を想起させ、給食便りや給食室前の掲示物、店のチラシなどを使って、他地域との関わりを捉える。 これまで調べてきた農作物がどこで売られているか予想を立て、学区にある様々なお店の写真から、これまでの買い物の経験を想起させる。
<ul style="list-style-type: none"> 販売の仕事に着目して、「単元を貫く問い」を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;"><単元を貫く問い></p> <p>たくさんの人に商品を買ってもらうために、どのような販売の工夫をしているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 「単元を貫く問い」の答えを予想し、それを基に学習計画を立てる。 	2		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びのつながりを意識して意欲的に学習に取り組むことができるよう、「店ではたらく人～みんなが買いたくなるお店の工夫～」と題し、売る人、買う人の思いや願いに迫ることができるようにする。 「キャリア・オリエンテーションⅡ」を行い、「解決する力」「イメージする力」とのつながりを意識させた上で、学習計画を立てる。 児童が「単元を貫く問い」の答えを予想し、その意見を集約して分類することで、児童が「値段」「宣伝」「接客」「売り場」の工夫があることに気付けるようにする。 <p>◎ 販売の工夫について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもつことができている。（主体的に学習に取り組む態度）</p>
<ul style="list-style-type: none"> 値段、宣伝、接客、売り場の工夫を調べる。 スーパーマーケットを見学する。 	4		<ul style="list-style-type: none"> 「のびゆく浜松」やスーパーマーケットの写真 図書室の本、インターネットなどを使って調べる。 児童が実際のスーパーマーケットでどのような工夫があるのかを見て学んだり、店員さんに質問したりすることで、販売の工夫について理解を深められるよう、近隣のスーパーマーケット

			<p>へ見学を依頼する。</p> <p>◎ 資料やインタビューなどを通して必要な情報を集め、売り場の様子や工夫を理解している。 (知識・技能)</p>
<p>・スーパーマーケットの販売の工夫についてまとめる。</p>	1		<p>・販売の工夫を集約して、全体発表の時の意見が見やすくなるよう、児童が自分の意見を書くときに付箋を用いるよう指導する。</p> <p>◎ 集めた情報を分類して、まとめることができる。(思考力・判断力・表現力等)</p>
<p>・商品を買う人の思いを調べ、情報交換をして話し合う。</p>	1		<p>・お客さんの立場から、販売の工夫を捉えることができるよう、保護者へのアンケートの項目に「よく行く店の種別や目的」、「そこへ行く理由」、「賞味期限」、「生産地」など具体的な質問項目を設定するよう助言する。</p> <p>◎ 保護者のアンケート結果を読み取り、消費者が買い物に対してどのような思いがあるかを理解できる。(知識・技能)</p>
<p>・スーパーマーケットの販売の工夫について話し合う。</p>	1	 	<p>・今まで調べてきた販売の工夫が、消費者の願いとつながっていて、販売者が消費者の願いに応えようと努力していることに気付くことができるよう、スーパーマーケットの見学で調べたことと、アンケートから分かったことを関連させながら話し合わせる。</p> <p>◎ 販売の仕事が、消費者の願いを踏まえて、売り上げを高める工夫がされていることが理解できる。(知識・技能)</p>
<p>・スーパーマーケットの学習を基に、もっと学んでみたいことについて話し合う。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <深い学びに導く問い> どんな工夫をすれば、みんながスマイルになるお店を作ることができるのかな。 </p> <p>・「深い学びに導く問い」の答えを予想し、それを基に学習計画を立てる。</p>	1	 	<p>・「原っ子タイム」で、「ジャガイモを売ってみよう」という意見があったことを紹介し、今回の学習で学んだことが生かされると気付かせ、「深い学び」につなげる。</p> <p>・ジャガイモ専門店の具体像を全体で話し合い、児童がどんなお店にしたいかをイメージできるようにする。</p> <p>・「みんながスマイルになるお店」とは、販売にかかわる「農家の人」「売る人」「買う人」がスマイルになることであることを押さえた上で、必要となる工夫を基に学習計画を立てる。</p> <p>・「農家の人」「売る人」「買う人」がどのような状態だとスマイルになるかを明確にしておく。</p> <p>・児童は、「農家の人」と「売る人」の二つの役割があることを説明しておく。</p> <p>◎ ジャガイモ専門店を作るために、どのような活動が必要かを考え、見通しをもってお店作りに参加しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>

<p>(「原っ子タイム」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の宣伝を考える。 	(2)		<ul style="list-style-type: none"> ・当日にむけて集客するために、チラシやポスター作りを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ専門店の工夫について、自分でアイデアを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・値段の工夫 ・宣伝の工夫 ・接客の工夫 ・売り場の工夫 ・2つのお店に分かれて、お店の工夫についてそれぞれ話し合う。 ・4つの係で出た意見をリハーサル店を行うメンバーで話し合う。 	4	 	<ul style="list-style-type: none"> ・「深い学びに導く問い」が、自分の問いであるという意識を高められるよう、値段の工夫、宣伝の工夫、接客の工夫、売り場の工夫（4つの工夫）について、自分なりの考えをもつ時間（一人学び）を設定する。 ・一人学びで、販売の工夫を考えた後、その考えを表現することができるよう、学級を2つに分けて、リハーサル店を開く場を設定する。 ・よりよい店にしたいという思いを高めるとともに、お店作りの課題を明確にし、より「みんながスマイルになるお店」に近づくことができる話し合いができるよう、2つのお店に分けてリハーサル店を実際に開いてみてはどうかと投げ掛ける。 ・お店分けは、一人学びの考えを基に分ける。 ・1つのお店の中で、値段係、宣伝係、接客係、売り場係の4に分けて、販売の工夫を考える。 ◎ ジャガイモ専門店の工夫について、学んだことを生かして考え、文章で記述できる。(思考力・
<p>(「原っ子タイム」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル店の準備を行う。 	(4)		<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル店は体育館に準備する。 ・リハーサル店の練習を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いのリハーサル店を体験し合い、宣伝、接客、売り場、値段について話し合う。 <p><1回目> (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宣伝、接客 <p><2回目> (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売り場、値段 	3 本時 3/3		<ul style="list-style-type: none"> ・2つのお店がリハーサル店を開き、お店を体験して感じたことを基に、よかった点と改善点を全体で話し合う活動を行うことで、よりよいお店の工夫について考えられるようにする。 ・みんな（「農家の人」「売る人」「買う人」）がスマイルになるお店作りを目指すことを確認し、4つの視点からリハーサル店を観察するように伝える。(宣伝、接客、売り場、値段) ◎ ジャガイモ専門店の工夫について、学んだことを生かして考え、文章で記述したり、相手に伝えたりできる。(思考力・判断力・表現力等)

<p>・「みんなスマイル！三方原ジャガイモせんもん店」をつくる。</p> <p>「深い学びに導く問い」のまとめ</p> <p><宣伝> 買う人が買いたくなったり、生産者の思いが伝わったりするポスター、ちらし、呼び込みとする。</p> <p><接客> 買う人が楽しみながら、買いたい物ができ、お得感を感じさせる接客とする。</p> <p><売り場> 買う人が商品を見やすく買いやすい売り場とする。</p> <p><値段> 赤字にならず、買う人に喜んでもらえる値段とする。</p>	<p>社会科 1</p> <p>(「原っ子タイム」) (1)</p>		<p>・前時の話し合いを基に、2つのグループの値段チーム、宣伝チーム、接客チーム、売り場チームが合体し、話し合いをして、3年1組全体の意見として決定する。</p> <p>・AグループとBグループそれぞれの「宣伝」「接客」「売り場」「値段」のチームが、前時と前々時の学習を基に話し合い、内容を決定する。</p> <p>・社会科の時間と「原っ子タイム」で各1時間、合計2時間で話し合いと店づくりを行う。</p> <p>・学級で1つの店を完成させることで、「深い学びに導く問い」のまとめとする。</p> <p>◎ ジャガイモ専門店の工夫について、学んだことを生かして考え、文章で記述したり、相手に伝えたりできる。(思考力・判断力・表現力等)</p>
<p>・決定した売り方の工夫を確認し、振り返りを行う。</p> <p>「単元を貫く問い」のまとめ</p> <p>販売の仕事は、値段や接客、宣伝、売り場の工夫をしている。これらの工夫は、買う人の願いに応えられるように考えている。</p> <p>・キャリア教育に関する振り返るをする。</p> <p>・「未来へつなぐ一言」を聴く。</p>	<p>1</p>	 	<p>・これまでの学習を振り返り、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを、児童がまとめられるよう支援する。</p> <p>・「解決する力」「イメージする力」を高めてきたことを振り返るとともに、社会科の学習は、今後の将来(生活や働くこと)につながっていくことに気付かせる。</p> <p>・これまでの準備の流れを再度確認し、「原っ子タイム」に学びの場が移ることを伝える。</p> <p>◎ 本単元での学びを振り返り、原っ子タイムでのジャガイモ専門店づくりで学びを生かそうとしているか。(学びに向かう力、人間性等)</p>

＜未来へつなぐ一言＞（教師）

スーパーマーケットの見学やアンケート調査、そしてリハーサル店を開いての経験などを通して、店で働く人の仕事の工夫やお客様の願いに応えるためにはどうしたらよいかなどについて学ぶことができましたね。お客様の願いに応えつつ、商品をたくさん売るための工夫の難しさを感じることができたと思います。

学級のみんなで力を合わせて、販売の工夫について自分で調べたり見学して質問したりして、大きなめあてを解決することができました。みんなは、解決する力がとてもパワーアップしたと思います。また、将来みんなは仕事につくことになるけれど、働くことや仕事と生活とのつながりについても考えたことがたくさんあったと思います。これらは大人になったときに役立ちます。社会科の学習は、皆さんの生活や将来につながる学習です。

今回学んだことを生かして、みんながスマイルになるジャガイモ専門店を作っていこうね。

7 本時の学習（18/20時間）

(1) 目標

<教科>

店で働く人々の仕事の様子や販売の工夫を基に、自分たちが育ててきたジャガイモを売る活動に向けたリハーサル店を体験し、みんな（「農家の人」「売る人」「買う人」）がスマイルになるお店の販売の工夫（「値段」と「売り場」）について話し合うことを通して、友達の考えを聴きながら選択、判断して自分の考えをもち、ワークシートに書いたり発言したりできる。

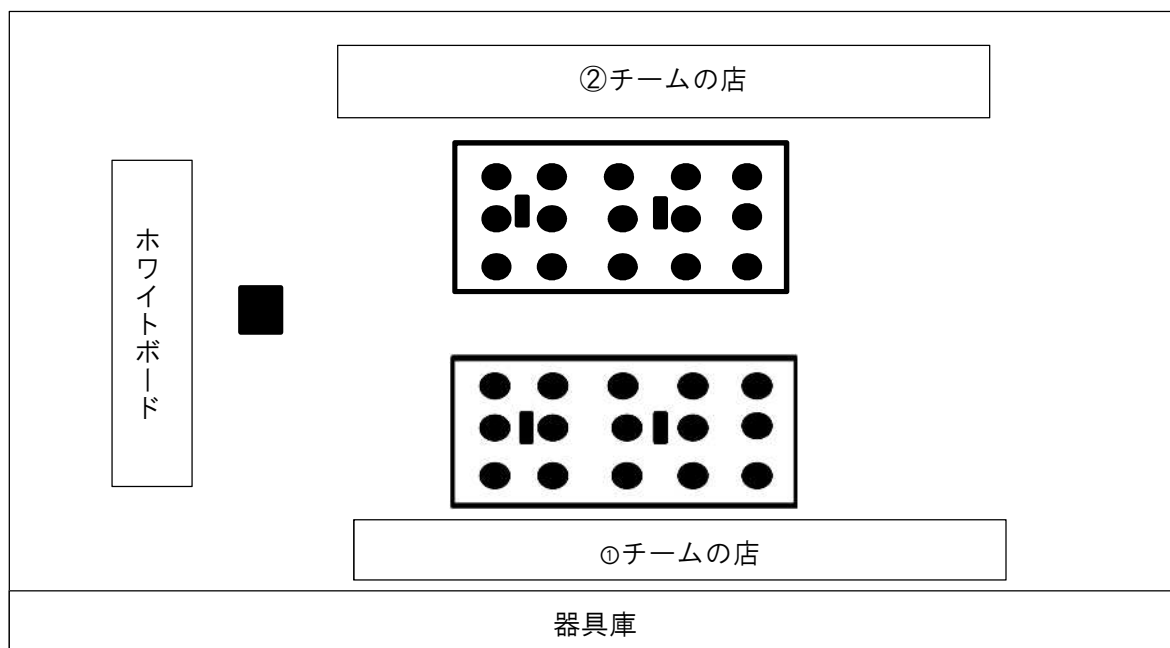
（思考力・判断力・表現力）

<キャリア教育>

本時の社会科の学習を通して、身近な仕事への興味を高めたり、働くことや仕事は自分の生活につながっている（役立っている）ことに気付いたりすることができる。

（キャリアプランニング能力）

(2) 場の設定（三方原小体育館1/4面）



■ : 教卓 ● : 児童 ┃ : マイク置き場

(3) 本時の学習

学種活動 ○主な教師の指示・発問 ・予想される児童の表れ	指導上の留意点 ○支援 ◎評価（観点） [評価方法]
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>○前は、「原っ子タイム」で作ったリハーサル店を体験し合って、話し合いをしましたね。どんなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル店をすると、どんなお店を考えたのかよく分かったので、今日も楽しみ。 ・みんなで話し合うと、お店のことをよく考えられると思うから、今日もみんなで話し合いたいな。 <p>○今日のめあてを確認しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お店を体けんして、売り方にはどんな工夫がひつようか考えよう。</p> </div>	<p>○児童の本時への思いを高められるよう、前時の話合いや「原っ子タイム」での活動を振り返る時間をもち、本時の意欲を引き出す。</p> <p>○前は、4つの視点のうち「宣伝」と「接客」について話し合ったこと、そして本時は、「売り場」と「値段」について話し合うことを押さえる。</p> <p>○本時のめあてについて、学習計画で確認する。</p> <p>○今日の話合いの目的が、みんな（「農家の人」「売る人」「買う人」）がスマイルになる店作りを目指すことを押さえる。</p>

	<p>○児童が「イメージする力」も高めていくことを自覚することができるよう、学習計画やめあてを確認した後に、黒板にキャリア・プレートを提示する。</p>
<p>2 チームごとにリハーサル店を開き、販売の工夫について話し合う。 ○お互いのリハーサル店を体験しよう。</p> <p><①チームのお店> ☆売り場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋売りにする。 ・商品は段を作って見やすくする。 ・ジャガイモより目立つ色で看板を作る。 ・看板にジャガイモの大きさが分かるように種類を書く。 ・季節を感じられる工夫で、みかじゃがくんの帽子をサンタクロースの帽子にする。 <p>☆値段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさで分ける。 こぶし大 1袋4個で148円 中ぐらい 1袋2個で78円 大きい 1袋2個で58円 <p><②チームのお店> ☆売り場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋売りとはら売りにする。 ・看板を作って、値段、大きさを書いて写真をつける。 ・階段みたいなものを作る。 ・柵を作って。落ちないようにする。 <p>☆値段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの大きさのジャガイモでも1個60円にする。 ・袋売りは、5個で300円にする。 <p>○「売り場」の工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんがジャガイモの買う数を変えられるに、袋売りとはら売り両方あったほうがいいと思う。(②チーム) ・袋売りのほうが、僕たちもお金の計算が簡単だから、袋売りだけ用意すればいいと思う。(①チーム) ・でも、スーパーで売る量を多くしたり、少なくしたりしていたから、はら売りも必要だと思うよ。(②チーム) ・確かにそうだね。はら売りもあれば、家族の人数分買って、お客さんがスマイルになりそうだね。(①チーム) ・商品を置く棚を階段みたいにすると見やすいね。どっちのチームにもその工夫があるから、これは当日のお店でも使いたいよね。(②チーム) ・でも、②チームのほうは、段があるけど小さいから、①チームのように大きいほうが見やすいね。(①チーム) 	<p>○前時に、互いのリハーサル店を20分程度体験しているため、本時のリハーサル店の体験時間は8分程度とし、話合いの時間をできるだけ確保するようにする。</p> <p>○販売員とお客さんを4分程度で交代し、全員が、販売員とお客を体験することができるようにする。</p> <p>○前時に「売り場」と「値段」についての自分の考え(よかった点と改善点)もワークシートに記入しているが、本時のリハーサル店の体験を通して、さらに付け足しや修正が必要になる場合も考えられることから、そのための時間を2分程度設ける。</p> <p>○話合いの視点が明確になるようスーパーマーケットでの売り方の工夫に戻って考えたり、みんな(「農家の人」「売る人」「買う人」)が、それぞれがスマイルになるために、どのような思いをもっているかを押さえたりしながら、話合いを進める。</p> <p>○発言者がいなくなったら、近くで相談をする時間を設ける。基本的に沈黙の時間も思考の一つとして考えて、大切にし、子供の発言を待つ。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・どちらのチームも看板がついているから値段が分かりやすかったよ。でも、看板の文字が小さいから、もっと大きく書かないと見えにくいと思う。(①チーム) ・そうだね。①チームみたいに、大きな字で書いたほうがいいね。それから、一つの看板にたくさんのお客さんのことを書くと分かりにくいから、看板を書き直したいな。(②チーム) <p>○「値段」の工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばら売りはいいけど、どんなジャガイモでも1個60円は高すぎるよ。小さいジャガイモは、もっと安くしてあげないとお客さんが買ってくれないと思う。(①チーム) ・そうかな。お客さんがスマイルになるだけじゃなくて、店員さんや農家さんもスマイルにならないといけないから、少し高いほうがいいと思う。(②チーム) ・私たちが作ったジャガイモは、三方原産で小学生が作った珍しいジャガイモだから、私たちも高くしたけど、高すぎると買ってもらえないと思う。(①チーム) ・スーパーでは、1個40円から、60円くらいで売っていたから、小さいジャガイモのばら売りは、1個40円にしたらどうかな。(②チーム) ・そうだね。40円なら買ってもらえそうだね。(②チーム) ・袋売りの値段は、①チームの値段がいいと思う。 ①チームの値段と比べると、僕たちの考えた300円は高いと思ったよ。(②チーム) ・そうだね。でも、148円だと、お客さんがお金を出すのが大変だから、150円にするのはどうかな。(②チーム) ・でも、お店のチラシを見て決めたから、148円がっていると思うな。(①チーム) 	<p>○肯定的な意見に偏っている場合、教師が子供に問いかけて、売る人、買う人など他の人の視点に立って考え、みんながスマイルになる工夫について再度考えられるように支援する。</p> <p>○話し合いが活発になるように、少数派の意見も聴き、途中で考えが変わったり反論したりしていくことも称揚していく。</p>
<p>3 ゲスト・ティーチャーの話聴く。</p> <p>○JAとぴあ三方原支店の店長さんと、ファーマーズマーケットの副店長さんの話を聴きましょう。</p> <p><売り場について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんが、買いやすくなるジャガイモの置き方を工夫すると思います。 ・ジャガイモはいろいろな大きさがあるので、大きさを分けて売るといいと思います。 ・看板は、大きく目立つような所に立てるといいと思います。字も大きく書くと見やすいと思います。 <p><値段について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・値段は、高すぎると売れないし、安すぎると売り上げが少なくなってしまいます。お客さんの思いも大切だけど、自分たちの売り上げのことも考えられると、みんなが笑顔になるお店になると思います。 	<p>○ゲスト・ティーチャーには、教師からのインタビュー形式で質問に答えていただく。</p> <p>○授業の中で児童が疑問に思った点や、販売の工夫の決定で迷っているところを中心にインタビューするよう留意する。</p> <p>○児童にインタビューの内容以外の質問があれば、ゲスト・ティーチャーにお聴きする時間を設ける。</p>

4 本時のまとめ、振り返りをする。

○話し合いを基に、自分の考えをワークシートにまとめましょう。

- ・売り方は、ばら売りと袋売りと両方用意する。
看板があると分かりやすい。
商品が見やすいように段にするといい。
- ・値段は、もう一度話し合う。

○ファーマーズマーケットの副店長さんのお話を聴きましょう。

＜未来へつなぐ一言＞

私たちも、みなさんと同じようにたくさん話し合いをして、商品を買ったりお客さんに気持ちよく買い物をしていただいたりするための工夫を考えています。みなさんの今日の話し合いは、実際の仕事の中で行われていることです。皆さんの勉強は、将来の職業につながっているのですよ。

ファーマーズマーケットで仕事をしていると、お客さんから、お礼の言葉をいただくことがあります。そういったお礼の言葉をいただくと、私も自分の仕事が、他の人の生活に役立っているということを実感して、頑張っただけよかったなと思います。

みなさんが、一生懸命お店作りを頑張っていることは、きっと生活や将来に役立ちますよ。

○「イメージする力」について、振り返りましょう。

- ・働くことや仕事は、自分の生活につながっていることが感じられた。(◎)
- ・働くことや仕事について考えることができた。(○)
- ・働くことや仕事についてあまり考えることができなかった。(△)

○「売り場」と「値段」の工夫についてワークシートに簡潔に記入するよう助言する。

○リハーサル店の体験や互いのリハーサル店の「売り場」と「値段」の工夫について話し合ったことを基に、友達の考えを聴きながら選択したり判断したりした自分の考えをワークシートに書いたり発言したりすることができる。

(思考力・判断力・表現力)
〔ワークシート、発言〕

○仕事についての興味関心を高め、自分の生活とのつながりを考えることができるよう、実際に店で働く人(ファーマーズマーケットの副店長さん)の話をお聴きする時間を設ける。

○副店長さんには、「未来へつなぐ一言」として働くことや仕事自分たちの生活に役立っていることに絞って簡単にお話していただくよう事前をお願いしておく。

○児童が短時間で「イメージする力」について自己評価の視点をもって振り返ることができるよう、3つの評価規準を黒板に提示する。